

山都町の名木【第8回】 井無田六地蔵のヒノキ

〔樹高〕北側 約21m 〔幹囲〕北側 約4.9m 〔樹種〕ヒノキ科ヒノキ属
南側 約15m 南側 約3.8m
〔指定等〕なし

町指定文化財である井無田六地蔵のそばに立つ2本のヒノキは、共に大きな洞があり、内部の表面が火や落雷により炭化していますが、大きな樹勢の衰えは見られません。ヒノキの語源は、「火の木」の意味とするものが広く知られていますが、「ヒ」は太陽を表す「日」や靈威を表す「靈」とする説も存在します。実際に、古来より社寺等の大型建築に使用される例が多く、伊勢神宮の造営材としても用いられています。また先の大戦中には、狂いが少なく強靱な木製用材として、航空機にも使われていました。

このヒノキを語るうえで、そばにある町指定文化財である六地蔵石幢と飯蓋城跡を外すことはできません。六地蔵は、大永7年(1527)に飯蓋備中守と称した菅原武宜なる人物により建立されています。飯蓋城跡には、中世城郭特有の堀切などの痕跡を確認することはできませんが、かつてヒノキの立つ位置は、「城門」と称されており、その立地から屋敷地等を木柵や土塁を巡らせた囲と呼ばれる形式の構えであったことが想定されます。また六地蔵には、飯蓋備中守の上位者として「宇治」の姓を称する阿蘇氏に連なる人物の名もみえます。これらは、阿蘇氏の全盛期を創出した大宮司惟豊の時期において、地域の動向を示す貴重な歴史史料といえます。



〔参考文献〕
1978 熊本県文化財保護協会 編『熊本県の中世城跡』
1996 平井 信二『木の百科-解説編-』朝倉書店
2009 清和村史編纂委員会 編『清和村史』
2010 九州ハイランド活性化協議会『山都町巨樹調査票』
注)「飯蓋」の読み方については、「いいふた」、「いぶた」または「いいぶり」とする文献もあり、特定は困難である。

頑張る“わきゃもん”～山都町の明日を担う農業者にお話を聞きました～



小田原 晋 さん
黒川
30歳 就農4年

建築関係の会社に勤めていましたが、祖父が亡くなったので後を継ぎ、ミニトマトを作っています。

農業は良くも悪くも難しいですが、農業を通じて多くの人との出会いがあるのが嬉しいです。特に地域の方や部会の方には、いろいろお世話になって勉強させてもらっているの、恩返しできるように頑張って、地域貢献ができればと思っています。

☆小田原 昭弘 委員より一言

東京からUターンされて、ミニトマト部会など積極的に参加し頑張っておられます。宝石の原石も磨かないと光りません。地域の良き後継者となる、期待できる優秀な若者です。応援しています。



梶原 哲也 さん
鶴ヶ田
30歳 就農10年

主に家族経営で、農繁期にはパートさんを雇いながら大根、シイタケ、米を育てています。

就農して10年程になりますが、まだまだ未熟者です。毎年いろんな課題や改善点が出てくるので、これからも日々勉強とチャレンジの気持ちで、頑張りたいと思います。

☆兼瀬 洋一 委員より一言

両親と一緒に、大根農家として頑張っておられる後継者です。農業だけでなく、消防団活動なども積極的で、地域の中心となって活躍されています。

地域のおじいちゃん、 おばあちゃんに 認められたい

10月10日～11日にかけて、DENGKEIという若手演劇NO.1を決めるイベントが熊本市の早川倉庫で行われた。

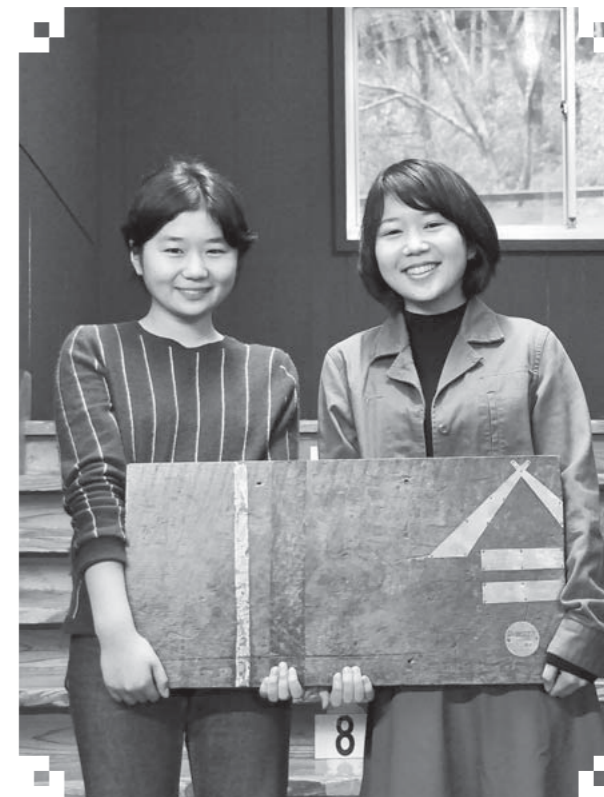
この大会は、「自分は若手だ!」という人・団体なら誰でも参加でき、県内外の10チームが集結し演劇を競い合うもので、大会の頂点に立ったのは山都町を拠点に活動している「劇団 天然木」。

今回、劇団天然木に所属され、優勝者でもあるひさがえ久枝しずくさん、りんかさん姉妹に取材させてもらうことにした。

「劇団天然木」は久枝さんの家族を中心に総勢7人で、父が舞台美術、母が音楽、姉のしずくさんが振り付け、妹のりんかさんが脚本と役割分担をし、まだ小学生の弟2人も演技にダンスと町内外のイベント等で活躍されている。

2人とも4歳の頃から演劇を始められ、「妹が4歳の時、お昼ご飯を食べ過ぎて、本番中に舞台上で寝ちゃったことがあって、それからは弟たちが寝た時バージョンの台本ができました。」としずくさん。「出演するイベントや大会に合わせて台本をつくっています。練習中のアドリブも生かしながら、本番ギリギリまで台本が変わります。」とりんかさん。家族劇団ならではのエピソードを笑顔で紹介してくれた。

今後の目標などを聞くと「地域のおじいちゃんおばあちゃんはとても芸達者な方が多く、その方々に認めてもらえることが目標。今後は、町内の小中学校でも公演していきたい。山都町を中心に活動していくことが私たちがなりの地域おこしになれば。」と2人は目を輝かせ語った。



優勝の盾を手にするりんかさん(左)、しずくさん(右)

優勝時の演劇

演題:「どけいくな」
脚本:久枝りんか
出演:久枝しずく、りんか
内容:タマコは15年ぶりに田舎のおばあちゃんの家に来てきた。相変わらずへんくつでわけの分からないおばあちゃん。でも、一つだけ、前と違うところがあった…。優しい夏の思い出に包まれながら祖母から孫へ生命のバトンが受け渡される。

山都町での公演

日時:2月27日(土)
午後2時開演(午後1時半開場)
場所:中尾児童館 1F(浜町30-1)
演目:「どけいくな」、
「落語ミュージカル死神」
※入場料は無料(投げ銭大歓迎!)
問い合わせ先:83-0622(天然木)
イベントでの公演依頼等は問い合わせ先まで